

# CASBEE® - 建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	戸畑メンテナンスサブセンター	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市戸畑区戸畑464-23	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	67人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2015年11月9日
敷地面積	6,649.401 m <sup>2</sup>	作成者	横尾和憲
建築面積	901 m <sup>2</sup>	確認日	2015年11月13日
延床面積	2,285 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 22%  
 ③上記+②以外の 22%  
 ④上記+ 22%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 注) 設計において、快適な空間を確保するよう、明確なゾーン分けを行った。		1. 限られた建設予算 その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 1. 掘削土を場外に搬出することなく場内に敷きならせるよう、計画地盤高を設定した。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1. 平面的に、執務室と水廻り空間を廊下を介して明確に分離することにより、快適な執務空間を計画した。 2. 執務室の照明制御を細かく分け、環境に対する負荷の軽減に配慮した。 3. 使用材料は極力F☆☆☆☆を使うよう配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1. 執務室の3面に窓を設け、アメニティの向上を図る。2. 執務室の床をOAフロアとし、将来の配置に対応できるように計画した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1. 建設敷地の3面に緑地を設けることにより、アメニティの向上に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1. 便所の照明を自動点滅にし、エネルギーの効率化に配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1. レディミクストコンクリートに高炉セメントを使用した。 2. 外構舗装に鉄鋼スラグ混入路盤材を使用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 1. 隣等間隔を十分確保し、通風を遮らないよう計画した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される